

9月20日と10月4日に、70回生による学術研究SAB中間発表会が各ゼミで開催された。10月4日は第1回SSH学校公開日でもあり、他校の先生方の前で発表する貴重な機会を得たゼミもあった。

今号では、各ゼミの発表会の様子を記載する。

物理ゼミ

非常に厳粛な雰囲気であり、聴衆・発表者ともに刺激のある発表会であった。ゼミ担当の先生方からは実験にする際、物理ゼミには必至と言える定量化に関して、実験回数、自分たちの研究に求める数値とは一体何なのかよく吟味して、信憑性を高めることが必要不可欠であるとのアドバイスを戴いた。

化学ゼミ

緊張しすぎているわけでもなく、気が抜けているわけでもなく、非常に良い状態での発表だった。質問をする人は、最初は少なかったものの、徐々に増えてきて、様々な角度から化学的な質問がされ、解答も論理的且つ建設的で互いに理解を深められる発表会だったと感じた。

生物ゼミ

終始、皆まじめに聞いていた。質問もたくさん出て、良い雰囲気であった。意義や目的、相対価値、計測方法、技術、実験についてなどといった質問もあり、少し考えさせられたこともあった。時間をオーバーする班が多く、声が小さかったり、途中で嘔んだりといういと準備不足の面もあった。

地学ゼミ

それぞれの発表に対して、最低でも一人質問するというゼミ担当者からの指示があったがどの班からも質問が出てきた。ゼミ担当者からは「今日の発表で行き詰まったと感じたら、また計画を再構築したらどうでしょう。」「研究の目的を明確にするように。」など、厳しめの講評を頂いた。

国語ゼミ

皆、原稿や事前研究を充実させていた。だが、まだ原稿を見て発表をしている班もあり、「素晴らしい発表」になるまでには時間を要すると感じた。ただ研究をまとめただけにせず、人に伝えるということを一層意識すべきである。また、質問が出されない班もあり、聴衆は考えながら聞くことを心掛けて欲しい。更にレベルを上げるには何が必要なのかを見通していきたい。



国語ゼミの様子

情報ゼミ

個性が存分に発揮され、多種多様な観点から発表を行っていた。だが、まだまだ見通しが甘く、問題点が浮き彫りになった発表会だった。先生からは、「見通しが甘い。」「目標を達成するために何をすべきかを考えよう。」などの講評を頂いた。



情報ゼミの様子

公民ゼミ

発表の内容は人それぞれであった。研究の方向がしっかりしているものもあれば、まだ固まっていないものもあった。研究に対する質問はあまり多くなかったように思われる。しかし、質問に対して的確に回答できる人が多いと感じた。

今回の発表は中間発表なので、これから研究を詰める時間はまだある。これからの取り組み次第ではどの研究も良いものになる可能性はあるように思う。

地歴ゼミ

各個人それぞれに発表をより良いものにしようとする努力や工夫がみられて良いものになったのではないかと思う。今回の発表で優れていた人の発表を参考にし、改善していく必要があるというアドバイスをいただいた。これからポスター発表会に向け、個人研究の良さを生かした個性あふれる研究を完成させられるよう、1人1人がより一層努力していく必要がある。

数学ゼミ

数学ゼミは個人研究であったため、個性の強いテーマが多かった。各個人での準備が遅いため、パワーポイントを使っての発表はできなかった。ほかのゼミとの遅れを感じているので、これからの時間を有効活用し、よりよい研究を作っていきたい。

英語ゼミ

発表が英語ということもあり、原稿を見ながらの発表がほとんどであった。生徒間での質問もなかった。ただし、内容はどの班も新鮮なものが多く、研究に対する雰囲気は良かった。

先生からは、いかにわかりやすくできるかを考えるようにとアドバイスをもらった。

保体ゼミ

発表の雰囲気は非常に良いもので、各々真剣に各グループの発表に聞き入り、質問も活発に行われていた。ただ、質問に対し満足のいくような回答になっていないグループが多かったことは少し残念だったが、今後の研究につなげられる違った視点からの意見を得ることができる発表会になった。

音楽ゼミ

家庭科ゼミとの合同発表会で、音楽ゼミ以外の人からの意見を聞くことができた。先生やOBの方から「原稿を読みがちである」とのご指摘をいただいた。また、発表は滞りなく円滑に進んだものの、質疑が活発に行われた訳ではなく改善すべき点も多く見られた。

家庭ゼミ

研究班が一つしかないため、音楽ゼミと合同での発表会を行った。両ゼミとも発表する方も聞く方も真剣で良い雰囲気だったと思う。家庭科ゼミへの質問は一切無かったが、音楽ゼミへの質問は条件設定の理由などが問われており、理由を明確に設定することが重要であると実感した。

編集後記

ゼミによって発表の工夫に差異があり、まだまだ努力の余地がある。自分たちの研究が価値あるものであっても聴いている人に伝わらないと意味がない。

中間発表が終了し、学術研究もいよいよ終盤である。今回の反省を踏まえてさらに良い研究をしていきたい。



家庭・音楽ゼミの様子



公民ゼミの様子